【兵庫県　加東市】

１人１台端末の利活用に係る計画

１．１人１台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

（１）個別最適な学びの推進

○ドリル学習アプリの導入により、それぞれの児童生徒の学習進度や興味・関心に合わせた教材や学習内容を提供し、一人ひとりの能力を最大限に引き出す。また、反復学習や発展学習など、個々のニーズに合わせた学習活動を可能にする。

（２）協働的な学びの促進

○協働学習アプリの導入により、グループワークやディスカッションなど、多様な学習形態を促進し、コミュニケーション能力や協働性を育成する。

○ビデオ通話アプリにより、遠隔地にいる児童生徒との協働学習が可能になり、学習が広がる。

（３）情報活用能力の育成

○「情報活用能力育成指針」及び「情報教育年間指導計画」に基づき、児童生徒の発達段階に応じて、情報収集能力、分析能力、発信能力を養い、これからの社会で求められるデジタルリテラシーを育成する。

（４）いつでもどこでも学べる学習環境の整備

○時間や場所に縛られない学習が可能となり、児童生徒の学習意欲を高める。

○自宅での学習や、学校以外の学習施設での学習も容易になる。

○動画、音声、画像等、多様な教材を活用した効果的な学習が可能となる。

（５）教員の働き方改革の推進

○教員の教材作成や事務作業の負担を軽減し、より多くの時間を児童生徒との対話に充てることができる。

○ICT機器を効果的に活用することにより、個別指導や少人数指導など、きめ細やかな指導が可能となる。

２．GIGA第１期の総括

市内すべての小中学校及び義務教育学校に１人１台端末を整備し、児童生徒一人ひとりが各自の学習に合わせた利用が可能となった。また各校から直接インターネットに接続する高速な通信ネットワークを整備し、オンライン学習やクラウドサービスの利用が円滑に行えるようになった。

ドリル学習アプリや協働学習アプリを活用し、個別最適な学び、協働的な学びの学習環境を提供することができた反面、新たなアプリ等の導入による教員への負担、学力向上への評価が

難しいと感じられる場面があった。

３．GIGA第１期における課題解決

ICTの活用について、講師を招聘しての校内研修会や市内の研修会を通じて、様々な事例や手法を学び、ICTを活用することで学習教材の準備にかかる時間短縮や授業改善を図る。

セキュリティソフトによる有害サイトへのアクセスは実施しているものの、情報の正確性を判断し、信頼できるコンテンツを判断するなど、インターネットとの上手なつきあい方について学習の幅を広げることが重要であることから、“ひょうごGIGAワークブック”を活用した情報モラル教育を推進する。

４．１人１台端末の利活用方策

GIGA 第１期では、１人１台端末の日常的な活用をすすめた結果、１人１台端末は学習面において必要不可欠なものとなっている。そのような中、令和２年度に整備した端末は、経年劣化が進み、物理的な故障に加え、バッテリーの消耗など、授業での利活用に支障が出る場面が増えつつある。児童生徒の学びを止めないためにも、１人１台端末の着実かつ円滑な更新を進める。

GIGA 第２期においては、次のとおり、１人１台端末の積極的活用を推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

（１）１人１台端末の積極的活用

各校の教職員が ICT 活用の目的を理解し、ICT 活用指導力が向上するよう、デジタル教科書や授業支援ソフト、ドリル教材など ICT 活用に関する研修を定期的に実施し、教職員のスキルアップに繋げる。授業での端末活用に加え、朝学習、すきま時間を活用した端末の活用、また家庭への持ち帰りを全校で実施し、校内及び家庭学習での利活用を推進する。

（２）個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実

学習面において、調べ学習や自分の考えをまとめ、発表・表現する場面、教職員と児童生徒、児童生徒同士がやりとりする場面など、ICT を活用する場面は多様である。児童生徒が自らの考えで、目的や場面に合わせて ICT を使い分けて効果的に活用し、課題を発見・解決する力を育成する。さらに、児童生徒一人ひとりの特性や理解度・進度に合わせた方法で学習を進めるため、AI 型デジタルドリルの活用及び各自の学習履歴をはじめとする教育データの利活用についても検討を行う。

（３）学びの保障

GIGA 第１期に引き続き、第２期においても日常の授業で端末をより効果的に活用することはもちろんのこと、特別支援教育や不登校支援など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面で ICT の利活用を進めていく。